時事新報

東京　明治十七年二月十四日　木曜日　第五百八十三號　日曜日休刊　定價金三錢

公報

○内務省達乙第十號　府縣

明治十二年當省乙第二十九號達ニ左之通追加候條不都合ナキ樣内眞計此旨相達候事

明治十七年二月十三日　内務卿　山縣有朋

一民有地ヲ道路敷及堤塘敷ニ變換スル事

但民有地ノ官有道路及堤塘ノ幅員ヲ增加スルモノハ此限ニ在ラス

一墓地ヲ廢スル事

一新地宅地ニ非サル民有地ヲ共葬燒場ニ選定シ及既成ノ燒場ヲ廢スル事

一水路ノ通路及用惡水ニ要用ナラサル民有第二種ノ地ヲ第一種ニ組換スル事

一規則ニヨリ官沒シタル地ヲ官有地第三種ニ編入スル事

一官沒年月ノ明カナル地ヲ公賣ニ附スル事

一海面埋立ノ事

但川口港内及其近傍幷ニ一町歩以上ノ工事ハ此限ニ在ラス

○工部省告示第四號

本年(二月)第一號告示電信賃錢中左ノ通改正候條此旨告示候事

明治十七年二月十三日　工部卿佐々木高行

内地各分局ヨリ釜山ヘ　七十錢改(正貨)　六十錢

長崎ヨリ釜山ヘ　六十錢改(正貨)　五十錢

長崎ヲ經テ釜山其他海外ヘノ料金

嚴原長崎間　五十泉改一語ニ付　洋銀六十泉

仝　釜山長崎間　七十泉改一語ニ付　洋銀六十泉

其他從前ノ通

時事新報

火ノ燃エザルヲ恃マズ家ノ燒クベカラザルヲ恃メ火災ノ慘毒ハ天下譬ルニ物ナシ一袴ヲ燒キ一笠ヲ燒クモ其惜ムベキヤ實ニ限ナシ況ヤ北風凜烈ノ夜一戸火ヲ失シテ其災千万戸ニ及ビ幾千万ノ生靈ハ忽チ其棲處ヲ失フノミナラズ併セテ所蓄ノ財産ヲ焦盡シ多年ノ辛苦經營ヲ取テ空シク一炬ニ附シ一身赤條々再ビ生計ノ辛苦ヲ新ダニシテ前途甚タ遙遠ナルガ如キ其損失其辛苦實ニコレヨリ甚シキモノナカルベキナリ然ルニ火事ハ江戸ノ花ト稱シ其災ノ劇烈ナルヲ恐ルヽノ餘ニモ聊カコレニ慣レタコレヲ喜ブノ情アルハ德川幕政以來此大都ニ一種固有ノ習俗ナリ豈ニコレヲ世界無比ノ惡習俗ナリト云ハザルヲ得ンヤ然レドモ東京ノ人民タル者其火ヲ減ムルノ心ニ於テ仮令聊カ厚薄ノ別アリトスルモ自カラ好ミテ其家ヲ燒キ財ヲ失フヲ樂ム者ハ未タ曾テアラザル道理ナルガ故ニ東京市内出火ノ原因ヲシテ竊リ戒慎ノ不足ヨリ生スル過誤ノ失火ノミナラシメハ幾分カ市内住居ノ人々モ恃ミテ以テ安心スル所ヲ知ルベキ筈ナリトモ雖ドモ蓋シイカナ近來市中ノ取沙汰ニ倣レハ毎夜幾回ノ出火ハ大抵皆放火ヨリ起ルモノニ係ルト果シテ此取沙汰ノ如ク無類ノ惡魔在出没シ警官憲兵ノ巡視ノ嚴ナルト各家各人相減ムルヲノ謀ヲトニ拘ハラズ能ク其惡計ヲ恣ニシテ妄リニ火ヲ弄スルモノナランカ我東京市内火災ノ慘毒ハ遂ニ其窮止スル所ヲ知ラザルベシ豈恐レザルベケンヤ戒メザルベケンヤ今放火ノ罪ヲ行ハル、ノ原因ヲ聞クニ其說ニ曰ク近來諸業甚タ不景氣細民ハ其妻子ヲダモ扶持スルヲ能ハズ遂ニ火ヲ人家ニ放チテ盜ヲ働クノ極ニ至リタルナリト又曰ク下民ノ愚ナル道ヲ辨セズ理ヲ知ラズ寂寞不景氣ノ時節ニ火事ガ起れば世ゲ直ると唱ヘ偶マ市内ニ火ヲ失スル者アレバ竊カニ相喜ビテ人ノ憂ヲ樂ムノ意味合ナキニアラズ目前膳椀桶盥皿茶碗ノ類好ク賣レ、類燒ヲ免カレタル各種ノ商店ニモ其商況ヲ回復シ得ザル者ナシ故ニ多數ノ愚民中ニハ諸人ノ爲めナドヽ唱ヘ竊カニ自カラ火ヲ放チテ功傷ノ偉ナルヲ矜ル者ナキヲ必ズモカラズ是亦放火ノ俺行スル一原因ナリト果シテ此等ノ說ノ如クナランカ目下大ニ警察ヲ嚴密ニシテ兇人ヲ捕押ヘ刑法ノ明文ニ依テ大ニコレヲ懲罰スルヲ以テ第一着歩ト爲シ次ヲ兇人出現ノ原因ナリト稱道スル諸業ノ不景氣ヲ挽回シテ繁昌ニ復スルノ法ヲ講スルヲ以テ第二着歩ト爲スノ外ニ工風ナカルベシ放火ノ兇人神出鬼没コレヲ捕ルヲ甚タ難シトハ云フモノヽ其原因ヲ除クニ比スレバ甚タ易シ兇人ハ既ニ捕ヘ盡クスモ諸業ノ不景氣ヲ回復セシムスルハ其事甚タ易カラズ政府ノ當局者ト農工商社會ノ有力者ガ各皆大ニ其力ヲ適當ノ方角ニ盡クスコアラザレバ到底實際ニ其効驗ヲ見ルヲ能ハザルベシ但シ農工商況回復ノ方案ハ本論ノ主意ニアラザルガ故ニ姑ラクコレヲ舍キ一旦各業ノ景氣回復シ隨テ放火ノ兇人モ其跡ヲ收ムルヲアリタリトセンカ其當坐東京市民ハ枕ヲ高クシテ眠ニ就クヲ得ベシト雖ドモ商況ノ一弛一張ハ自然ノ數ニシテ盛衰消長共ニ其永續ヲ期スベカラズ焉ゾ知ラン一度回復シタル好景氣ハ再ビ不景氣ヲ招クノ原因ト爲リ不景氣ノ極又今日ノ如ク放火ノ兇人ヲ出現セシメザルヲ毎年冬季九十日商況ノ景氣如クスルヲ得セシメザルヲ何ヲ見テ枕ノ高低ヲ爲サントスルガ如キハ我輩其迂ヲ笑ハザルヲ得ザルナリ加之東京ノ火災ハ其原由スル所惡ク放火ノミニ限ルニアラズ烈風ノ夜過ヲ自カラ火ヲ失シ千万戸ヲ一炬ニ附スルノ例甚タ少ナカラズ火ヲ失スルハ人ノ過誤ナリ人ノ過誤ハ烈風ノ夜ニ限リ必無ナリト定マラザル以上ハ今ノ東京市内ニ住居シテ春夏秋冬一日モ安心スルヲヲ得ベキ道理ナキナリ

我輩ハ諸業ノ不景氣ヲ憂ヘザルニアラズ兇人ノ所業ヲ惡マザルニアラズ人ノ惡情火ヲ失スルヲ咎メザルニアラズト雖ドモ唯コレヲ憂ヘコレヲ惡ミコレヲ咎ムルノミニカヲハ未タ以テ東京ノ火災ヲ撲滅スルニ足ラズト信スルナリ蓋シ東京ノ火事ハ其原因ノ枝葉ニシテ不景氣ニモ在リ兇人ノ放火ニモ在リ又人ノ怠惰過誤ニモアランカナレドモ其根底ノ原因ハ家屋ノ制ノ不完全ナルニ在リテ家屋ノ制ノ不完全ナルヨリ外ニハ火事ノ原因ナシト云フモ可ナラン故ニ東京市内家屋ノ制シテ全ク煉瓦造ト石造トニ改メシムルノ後ニアラサルヨリ外ハ東京ニ火事ノ災ヲ絶ツヲ至難中ノ至難事タルヤ甚タ明カナリ東京ノ中央市區ヲ改正シ同時ニ又家屋ノ制ヲ煉瓦造、石造ニ改メシムヲ希望シ其次第ヲ時事新報紙上ニ記載シタルハ我輩其幾回ナルヲ知ラズ東京市内家屋ノ制ノ不完全ナルハ内外人民ノ輿論ニシテ決シテ我輩記者ノ一家言ニアラズ近來兇徒出没慘酷ニモ火ヲ人家ニ放ツノ惡事ヲ企ツル者アリテ百万ノ人民夜ヲ眠ルヲ能ハズ幸ニシテ東京全都ヲ變シテ焦土ト爲スニ至ラザルハ尙ホ聊喜ブベキガ如シト雖ドモ風ノ吹カズ火ノ燃エザルヲ恃マズシテ家ノ燒クベキヤヲ恃ムコソ人間世界普通ノ道理ナルベケレバ今我東京市内家屋ノ制ヲ改良スルノ事ハ片時モ猶豫スベキニアラザルナリ

電報

○二月十日龍動發　埃及のシンカト及ひトカーは危急旦夕に迫り之を救ふの術盡きたり○水師提督ヘウエット氏は英國政府の要求ふ因りて埃及スワキムの最上文武總督に任せられたり

○一日三十日龍動發　昨夜大宴の席上ふてウオルセレイ侯い客歳中英國にてい三万三千八の體格强健なる壯丁が新に兵籍に入りたりと演說したり

○一月一日龍動發　墺都維也納及府外の近地ふては殺人の增加と社會党の蔓延とを以て陪審裁判の施行を中止したり

雜報

○御兎狩　聖上ふは來る二十日神奈川縣下武州蓮光寺村邊へ兎狩として行幸在せ給ふ旨御内意仰出されたり

○行啓　兩皇后宮には明後十六日芝公園地内能樂堂へ行啓遊いさるゝ旨昨日仰出されたりと

○御陪食　前號の紙上に掲けたる一昨十二日正午十二時宮中に於て御陪食被仰付さる人々は熾仁親王、彰仁親王、能久親王、大山陸軍卿、三浦陸軍中將、杉宮内大輔、野津陸軍少將、香川宮内少輔及歩兵大佐川上操六、同桂太郎、會計監督小池正文、軍醫監橋本綱常、歩兵少佐海水直、同小坂千尋、砲兵少佐村井長寛、工兵少佐矢吹秀一の諸氏ありしと

○參内拜謁　前號の紙上ふ粗掲載したる如く大山陸軍卿、三浦陸軍中將、野津陸軍少將及歩兵大佐川上操六、同桂太郎會計監督小池正文、軍醫監橋本綱常、歩兵少佐志水直、同小坂千尋、砲兵少佐村井長寛、工兵少佐矢吹秀一、歩兵中尉野島丹藏、砲兵中尉伊地知幸介、歩兵少尉原田輝太郎、會計三等軍吏俣賀致正、幷に農商務權少書記官和田維四郎の諸氏は孰も今般歐洲へ差遣いさるゝに付一昨十二日午前十時參内拜謁幷に賢所參拜を仰付けられ休憩所ふ於て各酒饌を賜りたり

○大山陸軍卿　又同卿ゲ謁見仰付けられたる時　聖上より今般の歐洲行は殊に苦勞ふ思召さるゝ由の懇切なる勅語を賜り且歐洲巡廻中兵事研究の件ふ關し各國皇帝、大統領へ贈らせ給ふ御親書とも同卿へ親しく御下賜在せ給ひたる由

○青木公使　伯林駐在青木全權公使には現　陛下よりコバ